

保育おおさか

No. 466

平成 26 年 6 月 1 日

発行人 永野 治男 編集人 齊藤 和正

大阪府中央区中寺 1 丁目 1-54

TEL.06-6762-9001 FAX.06-6768-2426

http://www.ans.co.jp/u/osakahtoiku/

新制度の中で子どもたちが豊かに育つ

環境づくり・地域貢献の強化を

子ども・子育て支援



永野 治男

子ども・子育て支援制度は、平成 27 年度の本格施行に向けて、国の子ども・子育て会議および同基準検討部会での検討が進められています。「基本指針」や「幼保連携型認定こども園の認可基準」、「保育の必要性の認定」など、各種基準のおおむねの方向性がまとめられ、さらに「公定価格」の骨格が示され、平成 26 年度の早期に仮単価が示される予定であり、新たな制度への具体的な運用が明確化されてきます。また、地方版の子ども・子育て会議においても具体的な運用に関する検討が進められ、各市町村において、早ければ 6 月議会から遅くとも 9 月議会において、条例案の制定がなされる方向で進んでいます。我々は、こうした制度改革の背景となった状況やその内容を適切に把握し、日本の未来を担う子どもたちが豊かに育つ環境を確立することが必要です。

一方、社会保障制度改革国民会議

や規制改革会議などにおいて、社会福祉法人に対して厳しい指摘が相次いでいます。特に、規制改革会議では、介護・保育分野における多様な主体とのイコールフットリングに向けた規制改革が優先課題とされ、財務諸表の開示の義務付けに加え、社会貢献事業への取り組みの義務化の議論がなされています。そういった状況をふまえ今年度、「地域貢献事業」のより一層の取り組み

み強化ができるよう推進してまいります。あわせて全種別部会が参画する生活困窮者などに対する総合生活相談事業である「オール大阪の社会貢献事業」の平成 27 年度本格実施に向けてさらに検討していきます。部会の皆様のご支援をいただきながら頑張っておりますので、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

保育部会 部会長 永野 治男

近畿ブロック保育研究集会 ご案内

平成26年度

日程：7月10日(木)～11日(金)

会場：ホテルオークラ神戸

主催：近畿ブロック保育協議会・
神戸市保育園連盟

※1日目の分科会では、大阪府から下記の保育園が発表されます。

- 第4分科会 「地域の子育て家庭への支援の充実にむけて」 豊中あけぼの保育園(豊中市)
- 第6分科会 「子どものより良い育ちにむけた関係機関とのネットワーク」 常称寺保育園(枚方市)

申込締め切りは5月30日(金)となっておりますが、お申し込み可能です。参加希望の方はお早めにお申し込みください。お申し込みはトップツアー株式会社・神戸支店まで。

なお、開催要綱についてはすでに各園に配布済みですが、ご入り用の場合は事務局までお問い合わせください。(TEL 06-6762-9001)



私事ではございますが、今回の「ねごと」で記念すべき10回目の登場でございます。

2002年から編集委員に推薦いただき、12年。干支が一回りしました。へたくそなりに原稿がびたりとはまった時は、やった!と喜び。満足できる表現の一行がでてこない時は、その瞬間は嘆き、悲しみました。

「保育園をたずねて」の取材では、実際に出かけ、取材先の園長先生から直接お話を聞くことを基本とし、今まで、40カ園ほど協力いただきました。誠にありがとうございます。

この取材はブロック活動を進める上で非常に役立つもので、取材の後には、総会や研修会でお声をかけていただいています。「保育園の紹介をしていただいて、ありがとうございます」と。そう言っていたいた時はうれしい限りです。そうして組織の調整役として、お世話役として役立つことが、ブロックを盛り上げ、さらにブロック長を支えることとなれば、この上ない幸せです。

(編集委員 M・H)

保育制度が大きく変わる時。 将来ビジョンを描き、地域に信頼される法人に

平成26年度保育部会総会が5月19日、ホテルモントレグラスミア大阪にて開催されました。永野孝男氏（大阪府議会・議員）はじめ、大阪府・堺市・高槻市・東大阪市・豊中市・枚方市の各行政からもご臨席いただきました。

第1部・式典

5年勤続感謝状の贈呈が行われ、対象者494人を代表して金城あぐりさん（エンゼル保育園）が感謝状を受けました。

「地域貢献支援員（スマイルサポーター）」大阪府知事認定証授与式も行われ、新たに212人が地域貢献支援員として認定。三ツ石浩幸氏（大阪府福祉子ども室室長）から、代表して宮尾映一郎さん（うみがめ保育園）に認定証が交付されました。



スマイルサポーター
認定者・宮尾さん

感謝状、認定証を受け取られた皆さんには、子育て支援や地域貢献事業の推進など、各園でのさらなる活躍を期待いたします。

第2部・記念講演

馬場耕一郎氏（厚生労働

省雇用均等・児童家庭局保育課・保育指導専門官）が「子ども・子育て支援新制度、幼保連携型認定こども園教育・保育要領について」のテーマで記念講演を行いました。

日本の 人口構造の変化

社会保障制度改革の全体像とともに、日本の人口構造の変化について説明。

現在1人の高齢者を2.6人で支えている社会構造になっており、少子高齢化が一層進行する2060年には1人の高齢者を1.2人で支える社会構造になると想定されている現状や、将来消滅してしまう自治体も発生するかもしれないことなどを説明されました。

また、大阪府内の市区町村別人口およびその指数では、2015年から2035年までの人口指数を示され、各市の数字を参

考にして、市単位または各法人の将来に向けてのビジョンを描くことの重要性を話されました。

さらに、消費税10%までの引き上げによる社会保障制度の安定財源確保の中で社会保障の充実にプラス2・7兆円程度。そのうち「子ども子育て対策」に0・7兆円を確保し、待

機児童の解消（保育、放課後児童クラブの量的拡充）などに使用されることをふまえて、社会保障制度の最先端で働いていることを深く認識することはとても大切だと強調されました。

優遇される根拠となる 法人運営が大切

現在の社会福祉法人に対する厳しい指摘についてもふれられ、「税制上、優遇さ



馬場耕一郎氏



301人が参加

れる根拠となる法人運営と地域貢献が大切。スマイルサポーターは、育児相談にとどまらずあらゆる面で相談に応じ、地域で生活課題をもつ方へのバックアップをしていく。また、感染症予防の情報発信基地としての機能するなど、園に通っている園児・保護者のみに対する支援にとどまらない地域への貢献が必要」と指摘されました。

子ども・子育て会議の 動向をより一層注視

新たな幼保連携型認定こども園の具体的制度設計について、設置主体は、国、地方公共団体、学校法人及び

社会福祉法人であること、自己評価は義務化、第三者評価は努力義務となることなどを説明されました。

幼保連携型認定こども園に置くこととされている保育教諭については、幼稚園教諭免許状と保育士資格の両方を有することが原則。ただし新制度施行から5年間は、いずれかを有していれば保育教諭になることができる経過措置が設けられています。また保有する幼稚園教諭免許状について、教員免許更新制が適用されます。

また幼保連携型認定こども園への移行については、新制度施行からある一定年月経過後に移行を希望したとしても、市町村単位での需給調整により、移行できない可能性があることも示唆されました。

最後に馬場氏は「今後の市町村の『子ども・子育て会議』の動向を一層注視し、国の『子ども・子育て会議』で示される公定価格の発表を踏まえた上、各法人で方向性の決定をしていただきたい」と強調されました。

（編集委員M・K）

仲間とともに挑戦し、 就学に向けた意欲を

知識を広げ、
学びの好奇心を育てる取り組み

茨木市

ひだまり保育園

毎朝の集中保育では、フラッシュカードや百玉そろばんなどが取り入れられています。幼児期は感性が育つ時期です。たくさん情報や知識をインプットすることが知識を広げ、学びの好奇心につながります。幼児クラスに進級すると皆で専門講師によるさまざまなレッスンに参加します。押しつけられた習い事ではな

「子どもたちは毎朝10時になると公園へ散歩に出かけます。行き先は園の近くの公園や、かなり遠くの公園までさまざま。『今日はどの公園?』とたずねると、子どもたちは『○○公園!』と元気に答えてくれます。これも子どもの個性を伸ばし豊かな感性を育て、自然や社会への興味を育てるための取り組みです。」



園児たちの元気な声が響きます

「保護者と保育士が互いに理解し、共感しあいが」に助け合い保育を実践する」この方針をベースに幼児保育をさらに追求されています。(編集員T・N)

訪問したのは2月下旬。発表会が終わり、卒園旅行の直前でした。行き先は琵琶湖の西にある箱館山スキー場。スキーはできませんが、皆で楽しく雪遊びを行います。そり遊びや雪合戦で元気いっぱい走り回っているそうです。駅からの距離と一度に大勢での移動が可能なゴンドラが便利で

「食」に関して、地産地消を重視し、枚方農民組合と契約して地元米を直接購入しています。食育として、田植えの際には園児たちも手伝います。散歩でその成長を見たり、様々な野菜の観察を行ったりしています。刈取り時期のお手伝いもしています。春にはレンゲ畑となった農地に招待していただけます。



先生、みんな、ありがとう

「リズム遊び」を存分に行えます。卒園式でも「リズム」に乗って証書の授与が行われます。(編集員J・F)

ひだまり保育園は民地が立ち並ぶ住宅地の一角で、乳児たちが楽しく通う小規模園として昭和50年より活動されてきました。

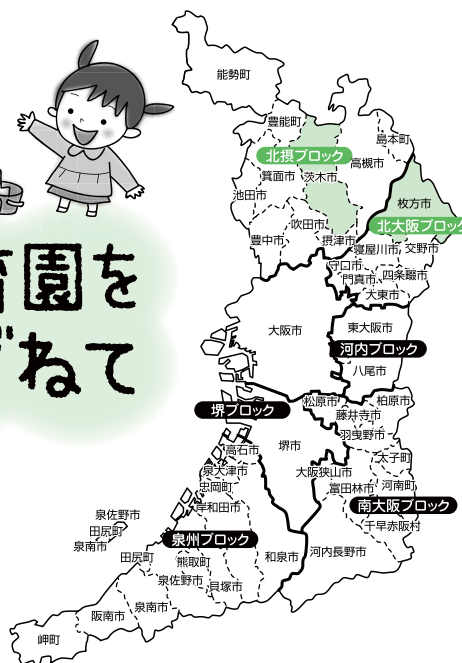


毎朝行う集中保育



保育園を
たずねて

494



年長さんの最後の行事です

自然に触れる雪遊び 卒園旅行と食育の取り組み

リズム遊びで楽しみながら
体づくり

枚方市

枚方たんぽぽ保育園

園隣接のカフェで 地域のママたちを支援 保育園の新しい文化を創りたい

堺市

あさか保育園

丸窓が素敵な建物です。妊婦さん対象のルームスプレー作りやマタニティヨガ、産後一年前後のお母さん対象の離乳食教室、ベビーマッサージ、絵本作りなどさまざまな教室を、保育のスタッフが専門知識を生かして計画実施されています。

以前、園に隣接する土地には雑草が生え放題で不法投棄が絶えず、地域でも問題になっていました。そこで園長先生が決意、自費で購入し、今年、子育て支援カフェ「ル・ボン」を開設されました。フランス語で「風」を意味する名前のとおり、吹く風の方角に合わせて設計し、漆喰の壁、石の瓦など自然素材を使った、丸窓が素敵な建物です。

以前、園に隣接する土地には雑草が生え放題で不法投棄が絶えず、地域でも問題になっていました。そこで園長先生が決意、自費で購入し、今年、子育て支援カフェ「ル・ボン」を開設されました。フランス語で「風」を意味する名前のとおり、吹く風の方角に合わせて設計し、漆喰の壁、石の瓦など自然素材を使った、丸窓が素敵な建物です。



丸窓の印象的な白い建物



癒される室内

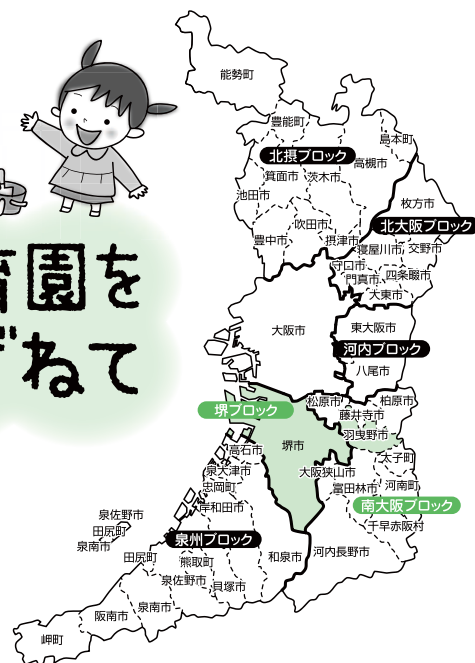
(編集委員T・S)

ます。ママ仲間と子育ての話ができる場所と好評。子育て啓発・生き方啓発に資することができればとの思いで、夢は「保育園と言えばカフェ」といわれる新しい文化を創ることです。



保育園を たずねて

495



おばあちゃんからのプレゼント

天王寺悲田院保育園は、仏教の精神に基づき、人と人とのつながりやふれあいを日常的に持ち、子どもたちの成長への憧れや思いやりの心を育んでおられます。

天王寺悲田院保育園は、仏教の精神に基づき、人と人とのつながりやふれあいを日常的に持ち、子どもたちの成長への憧れや思いやりの心を育んでおられます。

園内に置かれた太子像から、仏教の精神が支柱にあることがうかがえます。同じ敷地内に児童センター「研徳田」や老人福祉施設、障害児通園施設が併設されているという複合施設の特性を生かし、保育園内での活動にとどまらない交流保育を行っています。

園内に置かれた太子像から、仏教の精神が支柱にあることがうかがえます。同じ敷地内に児童センター「研徳田」や老人福祉施設、障害児通園施設が併設されているという複合施設の特性を生かし、保育園内での活動にとどまらない交流保育を行っています。

先日は、花祭り行事で園児たちが老人福祉施設内をスタンブラリーでまわるという企画をされたそうです。

先日は、花祭り行事で園児たちが老人福祉施設内をスタンブラリーでまわるという企画をされたそうです。

園内に置かれた太子像から、仏教の精神が支柱にあることがうかがえます。同じ敷地内に児童センター「研徳田」や老人福祉施設、障害児通園施設が併設されているという複合施設の特性を生かし、保育園内での活動にとどまらない交流保育を行っています。

園内に置かれた太子像から、仏教の精神が支柱にあることがうかがえます。同じ敷地内に児童センター「研徳田」や老人福祉施設、障害児通園施設が併設されているという複合施設の特性を生かし、保育園内での活動にとどまらない交流保育を行っています。



聖徳太子が見守る中で

(編集委員R・Y)

人たちが同じ敷地内で垣根なく過ごすことが子どもたちの育ちにとって大切であると思います」と施設長の山口浩子先生。0歳の赤ちゃんから100歳のお年寄りまでが日常的にふれあい、豊かな人間関係が育まれています。

人たちが同じ敷地内で垣根なく過ごすことが子どもたちの育ちにとって大切であると思います」と施設長の山口浩子先生。0歳の赤ちゃんから100歳のお年寄りまでが日常的にふれあい、豊かな人間関係が育まれています。

人たちが同じ敷地内で垣根なく過ごすことが子どもたちの育ちにとって大切であると思います」と施設長の山口浩子先生。0歳の赤ちゃんから100歳のお年寄りまでが日常的にふれあい、豊かな人間関係が育まれています。

人たちが同じ敷地内で垣根なく過ごすことが子どもたちの育ちにとって大切であると思います」と施設長の山口浩子先生。0歳の赤ちゃんから100歳のお年寄りまでが日常的にふれあい、豊かな人間関係が育まれています。

羽曳野市 四天王寺悲田院保育園



リスクマネジメント
わが園の取り組み

大災害への備え 保育園にできること

取石保育園(高石市)

東日本大震災の 教訓を生かして

3年前におきた東日本大震災は、忘れてかっていた阪神淡路大震災の教訓を思い出させ、日本中の人々に自然の脅威と防災の重要性を再認識させる出来事でした。その後、南海トラフ巨大地震・津波が60〜70%の確率で発生するとの報告がされ、大阪湾沿岸部に位置する高石市においても、地震・津波の脅威が他人事ではなく、身近に迫る危機であるとの認識を新たにしました。

本園でも地震避難訓練のあり方や内容を見直したと

ころ、実際に大地震が起きたときに予想される混乱に適切に対応し、園児の安全を最優先に避難するために様々な問題点があることに気付きました。具体的には、職員間の役割分担の確認や市、地元自治会、小学校、中学校など関係各機関との連絡網の構築、保護者への連絡方法の統一、保護者のお迎えや園児送迎バス経路を柔軟に変更するためのマニュアル作り、園児を保護するための最低限度の備蓄の確認など、いまだ実施できていない新たな課題も出てきました。現在もこ



羽衣小学校の児童に避難誘導される羽衣保育園の園児

これらの課題を一つひとつクリアするため、改善に努めている最中です。

高石市全体の 取り組み

高石市では学校や幼稚園、保育園だけでなく一般市民の方や企業の方も参加した一斉の地震・津波避難訓練を平成24年から計3回実施しました。特に、平成25年11月5日の避難訓練では、それに先立つ防災教育講演会で群馬大学の片田敏孝教授から、東日本大震災において釜石市の中学生たちが平時より訓練を重ね、津波発生時に「より高く、より遠く」避難行動をし、ほぼ全員が生存した「釜石の

奇跡」のお話を聞いていたこともあり、合計7941人の参加者によって市の広域避難地まで水平避難が行われました。

一斉避難訓練から 見えてきたこと

幸い、本園は高石市の中でも最も高い海拔に位置し、市が指定した広域避難場所よりもはるかに海拔が高いため、全園児が運動場に避難した後、生存者を確認し、災害本部へ無線連絡するという、普段の避難訓練とあまり変わらない内容で行うことができました。しかし、沿岸付近の他園では広域避難場所までの数キロを限られた時間内で避難する大がかりなものとなりました。

その中で今回の避難訓練では、近隣の専門学校生や小学生が沿岸部の幼稚園・保育園の園児の避難補助を行うなど、緊急時の乳幼児や肢体不自由なお年寄りの避難に、小学生、中学生、高校生、専門学校生などが重要な役割を担う場面が見受けられました。このこと

は、近隣施設間の日頃のコミュニケーションによって、緊急時に相互に協力し合うことができることの重要性を示したものだと思っています。

また、一斉訓練から得た課題としては、一時に多くの人が避難したため、避難経路に幼児・児童・大人があふれ、幼児が怪我をしてしまうといった事例が見られたことです。実際に大地震が起こった場合は、訓練以上に多くの人が避難する上、たくさん車の車両も通行することが予測されるため、避難経路を一本化せず、柔軟に避難できるよう普段から何通りかの避難経路を設定しておくことも大切だとわかりました。

保育園が求められる 緊急時の役割

さらに、被災状態が長く続いた際に、保育園の機能を社会的にどのように提供するか問われます。前述のとおり、当園のように津



南海福祉専門学校の生徒に誘導される南海愛児園の園児

波の被害が少ない園は、施設が安全であることを確認し、在園児の保護に支障のない範囲で、被災した乳幼児を受け入れる体制作りにも取り組むべきと考えます。そのためには、在園児のみならず近隣地域や沿岸部の被災した乳幼児を受け入れるためのスペースも確保し、ある程度の備蓄もなければならず、決して簡単なことではありません。しかしながら、社会福祉法人のあり方が問われる昨今において、大災害時に乳幼児の安全を確保する拠点となることは、公益性の観点からみても今後問われていく課題ではないかと考えています。

(取石保育園Y・S)

「府子ども総合計画(仮称)」

とりまとめに向け議論

4月23日、プリムローズ

大阪にて「大阪府子ども施策審議会」が開催されました。昨年に引き続き、大阪府立大学地域保健学域教育福祉学類・人間社会学部教授の山野則子氏を会長に、奈良学園大学人間教育学部教授の善野八千子氏を会長代理として、合計20名の委員のうち15名の委員が出席されました。また、行政からは酒井隆行府・福祉部長はじめ、子育て支援課や私学・大学課、警察本部総務部など関係各部署の代表が同席しました。

まず、4月3日に開催された「同審議会・計画策定部会」において議論された内容を反映した「大阪府二一〇調査の概要」について報告を受けました。

母親の就労希望に関する調査結果について、ある委員から「ひとり親家庭の母親はフルタイムで働きたいと希望している。調査結果

で『フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない』という人が3割いることから、母親の働き方の希望として、『パートなどで働きたい、または働き続けたい』という人がもともと多い」という結論に疑問がある」との意見がありました。また、別の委員からは、家庭の養育力の調査の中で「育児不安」の定義について専門家としての意見が出されました。

続いて「大阪府子ども総合計画(仮称)」の中間まとめについてでは、前回「学力の問題」や「暴力の問題」については中学校だけの問題ではなく、どの年齢や地域においても抱える課題であるので配慮をお願いしていた点が修正されていました。

また「就学前児童をもつ家庭に対する施策の重要性」については就学前教育の必要性を示す「ペリー就

学前計画」の引用をお願いしており、その内容を追加していただきました。「ペリー就学前計画」では「就

学前教育への投資は、小学校以降での教育投資に比べて費用対効果が高い」という実験結果が出ています。

また、ある委員からは、「結婚するか、しても子どもを産むのか、については強制されることではない」との意見が出されました。

全ての委員からそれぞれの専門的な観点をもとに多

くの意見が出されました。これらの意見を取りまとめ、9月に開催予定の第2

回大阪府子ども施策審議会に「大阪府子ども総合計画(仮称)素案」として提出される予定です。

最後に、子ども・子育て支援新制度に関する「計画策定部会」での検討状況について報告がなされましたが、4月3日以降の変更点はなく、本紙5月号に掲載した内容のとおりです。

(副部会長・森田信司)

ブロックだより

OSAKA

北摂

マナーとは、相手を大切に思いやる気持ち

コミュニケーション

マナー研修

3月10日、茨木市福祉文化会館で開催された北摂ブロック保育部会の保育士研修会では、社会教育研究所槌間勢津氏を講師にお迎えして、「円滑なコミュニケーション

振り返り、欠点に気づき、認めていくことが大切である。そして、1年目とは少し違うこと、新しいことを取り入れ挑戦したり、自分の欠点についてどのようにすれば上手くいくのかを考えて行動を計画する——自分から動く姿勢を持つことの大切さを教わりました。

一人ひとりが1年間の仕事を振り返り、PLAN(目標達成のために何からどのように取り組むか具体的に考える)DO(みんなで取り組む)CHECK(実行したあとにうまくいったこと、いかなかったことを振り返って次の実行プランを立てる)ACTION(反省点を踏まえて再実行する)、このPDCAで仕事に取り組むことが大切であり、成長できるサイクルだと話されました。

人間関係についての基本姿勢は、相手の話を聴くこととであり、信頼関係を築く上での第一歩である。十分に話すこと、コミュニケーションをとることににより、相手への気付き・発見・理解が得られる。コミュニケーションが上手くなるに

は、相手を観察し聴き、伝えることが大切。何となく聴くのではなく注意深く聴くことが「聴く」ことになる、と講師の槌間氏。

マナーとは、相手を大切に思いやる気持ちを形に表すこと。気持ちにゆとりがないと相手に対して気配りができないので、ゆとりを持って行動することが大切。マナーの基本は、①身だしなみ②表情③挨拶④態度⑤言葉遣いである。第一印象は、①と④で決まるので、自分のくせに気付き直すことで相手に良い印象を与えることができる。言葉遣いは、敬語の種類を増やし話せるようになると、好感度を高められる。中でも電話応対は顔が見えない分、より丁寧な言葉使いが必要であると教わりました。

研修会参加者と実際にふれあう機会が設けられ、その中でマナーの大切さも学ぶこともでき、積極的なコミュニケーションを心掛け、相手が心地良くなるマナー、思いやりの行動を再認識することができました。

(玉川橋保育園M・A)